

令和6年度 予算のお知らせ

効率的な保健事業と 医療費適正化に取り組みます

ジャヴァグループ健康保険組合の令和6年度の予算案が、去る2月14日開催の第63回組合会において可決承認されましたので、その概要をお知らせします。

当健保組合の令和6年度の予算総額は4億2,599万4千円となり、経常収支差引額は1,896万9千円の赤字を計上しました。

健保財政の収入の柱となる保険料収入は、社員数の減少や賞与の減額などにより減少傾向にあります。また、支出面では、高齢者医療への拠出金は減少を見込んでいますが、保険給付費は大幅に増加することから、健保財政は今後も厳しい状況が続くと考えられます。

令和6年度の健保組合を取り巻く情勢としては、第4期特定健康診査・特定保健指導および第3期データヘルス計画の実施が挙げられます。当健保組合でも、特定健診・特定保健指導の受診勧奨と、被保険者・被扶養者の皆さまへの効果的・効率的な疾病予防事業を進めてまいります。併せて、医療費適正化や経費節減にも積極的に取り組んでまいります。

また、今年12月2日には現在の健康保険証が廃止され、医療機関の受診はマイナンバーカードに一本化されることが決まりました。発行済みの保険証については保険証廃止後も最大1年間有効となります。また、マイナンバーカードの交付を受

けていない人等には、健保組合から「資格確認書」が交付されます。当健保組合でも、マイナンバーカードと健康保険証の一体化に関する広報、マイナンバーの収集や確認業務などに対応してまいります。

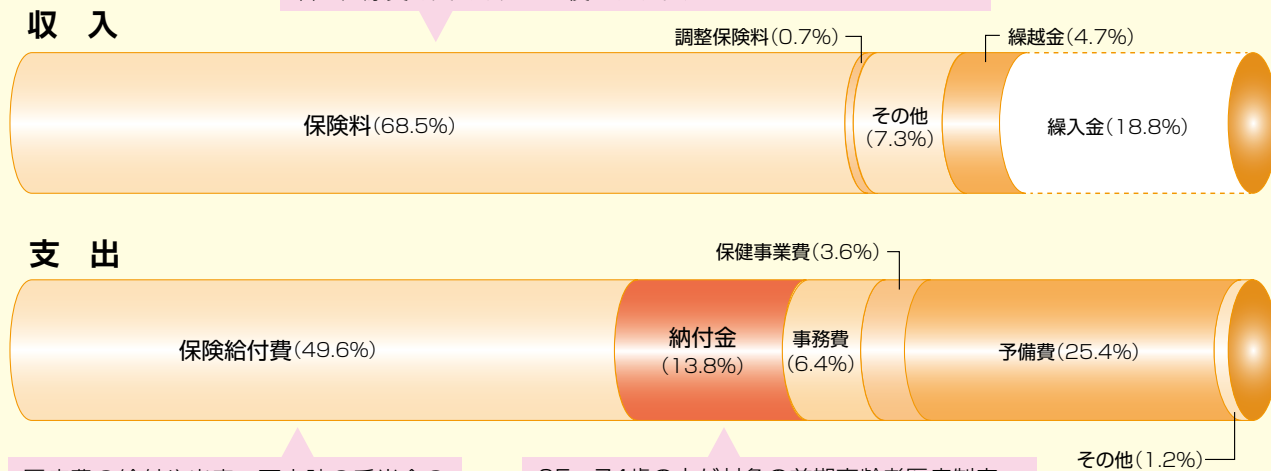
さらに、令和6年度は、医療費の単価である診療報酬の改定が実施されます。最終的に診療報酬本体は0.88%引き上げ（薬価等1.0%引き下げ）、介護報酬は1.59%引き上げという改定率になりました。引き上げは患者の負担増、保険料の上昇につながるため、容易には受け入れ難いことですが、財源は医療・介護従事者の人材確保のための処遇改善等に充てられることなどから、一定の理解はできます。現役世代の負担上昇の抑制は、持続可能な社会保障制度のためにも重要な課題です。改めて踏み込んだ給付と負担のバランスの検討が求められます。

当健保組合としましては、今後も皆さまの健康増進に努めてまいります。皆さまにおかれましても、当健保組合の保健事業を積極的にご利用いただき、健康管理・疾病予防を心掛けていただきますようお願いいたします。

令和6年度 収入支出予算概要

健康保険分 収入と支出の割合

毎月の給与と賞与から納めていただく健保組合の主要財源です。「基本保険料」は皆さまの医療費などに使われ、「特定保険料」は高齢者の医療費を支えるために使われます。



医療費の給付や出産、死亡時の手当金の給付などをするための費用です。

65～74歳の人を対象の前期高齢者医療制度への納付金と、75歳以上の人を対象の後期高齢者医療制度への支援金などです。

収入 (千円)			
経常	保険料収入	291,747	
	利子収入	332	
経常外	その他の収入	2,557	
	調整保険料収入	3,251	
	前年度繰越金	20,000	
	別途積立金繰入	80,000	
	その他の収入	28,107	
合計		425,994	
経常収入合計		294,636	

支出 (千円)			
経常	事務費	27,103	
	保険給付費	211,171	
経常外	納付金	58,928	
	保健事業費	15,541	
	その他の支出	862	
財政調整事業拠出金		3,251	
その他の支出		1,002	
予備費(残金)		108,136	
合計		425,994	
経常支出合計		313,605	

経常収支 **-18,969**

経常収入合計 294,636 千円 — 経常支出合計 313,605 千円 = 経常収支差引額 ▲18,969 千円

介護保険分

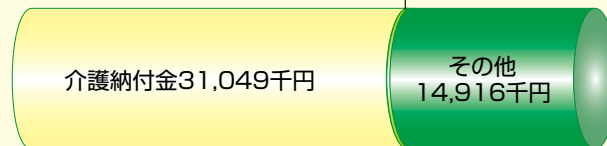
収入合計45,975千円



40～64歳の被保険者が負担している介護保険の保険料です。



支出合計45,975千円



市区町村に介護保険の財源として配分するために健保組合が負担する納付金です。



保険料率について

●健康保険料率は据え置き (90/1000 → 90/1000) となりましたが、介護保険料率は引き下げ (16.4/1000 → 14.0/1000) となります。

健康保険の保険料収入につきましては社員数の減少や賞与の減額などにより、保険料収入が年々減少していますが、健康保険料率は据え置きます。しかし、今後は保険給付費のさらなる増加が見込まれますので、見直しが必要となります。介護保険は準備金が十分に確保できていますので、介護保険料率を引き下げることになりました。

